

# たんぽぽ

第3号 令和元年9月



社会福祉法人 岩手愛児会  
たんぽぽ病児保育所  
〒020-0102  
盛岡市上田字松屋敷11-14  
Tel 019-662-5619  
携帯 070-1736-3793  
E-mail tanpopo@aiji.or.jp

今回はヒトメタニューモウイルス感染症についてです。夏に多い病気ですが一年中感染の恐れがあり大人も子どもも罹るのでご承知置きください。

## ヒトメタニューモウイルス感染症とは？

気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症をひきおこすウイルスの一種です。1~3歳の幼児で流行することが多い。そして、大人にも感染します。特に乳幼児や高齢者では重症化することもあり注意が必要です。

### <主な症状>

風邪症状がでて、咳(多くの場合、1週間程度続きます)熱(高熱、4~5日程度続きます)鼻水(中耳炎になる事もあり)ゼイゼイ(ヒューヒュー)という呼吸(喘息様気管支炎、細気管支炎)呼吸困難など重症になることもある。

### <特徴>

ウイルスの遺伝子や症状がRSウイルスに似ており、症状の見た目だけでは診断出来ません。集団感染の流行を防ぐには鑑別を行うことも大切です。医師から検査を勧められることがあります。

### <治療>

ヒトメタニューモウイルス感染の場合は、各症状を楽にする対症療法が行われます。ウイルスには、抗生物質が効かないためです。ただし、細菌に感染してしまい中耳炎や肺炎症状がある場合は、抗菌薬治療が必要となります。熱が再び出たり長引いたりお子さまの様子が心配な時は、もう一度早めに受診しましょう。また、お薬が出たら指示通りに飲みましょう。自己中断せずにお薬の指示を守って再発を防ぎましょう。(水分や食事をしっかりと摂取し、温まり、ゆっくり休みましょう)

### 感染を防ぐ秘訣は？

鼻水の着いた人の手やマスク、ティッシュ、咳やくしゃみを介して感染します。園や学校で大流行してしまう事もあります。手洗い・うがい・マスクを徹底しましょう！(注意：鼻水が出ている内は、感染源となります。)

### ※RSウイルス感染症とは・・・

69%の乳児が生後最初の一年間でRSウイルスに罹患します。その3分の1が風邪様症状から重症の細気管支炎や肺炎などを起こす報告があります。下熱してもヒューヒューゼーゼーの喘鳴やチアノーゼ(指先や唇の血色不良、顔面蒼白)とみぞおち部分が凹む陥没呼吸になると入院治療が必要になります。息苦しう、ひどい咳と感じたら受診しましょう。酸素不足で傾眠や意識がなくなると重症症状です。(大人も罹患しますが、風邪症状を起こす程度ですが、高齢者の場合は重症になることもあります)

### ※抗生物質とは・・・

原因が体に悪さをする細菌の感染による病気の治療に用います。(ウイルス性には効かない)つまり、風邪のほとんどを占めるウイルス性の風邪には抗生物質は不要なのです。ただ、体力低下をきっかけに細菌感染(二次感染)することで気管支炎や肺炎、中耳炎となり重症化予防と治療が必要な状態に医師の診断で処方になります。点滴(抗生物質)の場合もあります。飲みきっても症状が治らない場合は継続治療が必要か受診をして医師の診察を受けましょう。(自己中断しないで、細菌が残っていると再発する恐れがあります。)

## 一年中ありますがこれから発症を迎える病気「溶連菌感染症」についてです。

病名は聞いたことがあるけどよくわからないという方もおられるでしょう。ちょっと怖い病気です。

特徴・・・症状の始まりは38~39度の発熱、のどの痛み。

中には吐き気嘔吐がでることもあり風邪と少し感じが違います。

抗生物質を10日間~2週間飲み続ける必要があります。

※医師の指示に従うこと。完治したか検査の必要があります。

再発や合併症の恐れがあり~発症時の症状が改善しても要注意！完治の判断は2~3週間後。

「抗生物質を飲んだら症状も良くなったし大丈夫だわ！」と内服薬を自己中断したり、2週間後の検査に来てください。と言われていたのに行かなかった。なんてことは油断大敵です。「溶連菌」はきちんと完治しないと重大な合併症を引き起こす細菌です。

合併症には、リウマチ熱(発熱と関節が痛み腫れる、心臓弁膜に障害を起こす)や急性糸球体腎炎(血尿やむくみを伴う)や猩紅熱(全身に赤い発疹がでる)などがあります。恐いことに溶連菌は、劇症型溶血性連鎖球菌に変化することもあり(人食いバクテリアといわれる)、医師の指示に従いきちんと治すことと注意が必要です。登園登校についても診察の際に医師の許可を確認ください。

お家での看護のポイント・・・家族の感染率は兄弟間で約50%親子で約20%、妊娠中の方は注意が必要です。予防接種はなく、他の感染症と同じく手洗い・うがい・マスクを徹底しましょう。また、コップや食器の共有は避けましょう。溶連菌感染症は、くり返すことがあり、罹りやすい子はくり返す傾向があります。溶連菌は同類菌20種類以上存在しています。かかりつけ医の指示通りに受診と検査を受け完治させることがポイントです。水分補給を充分におこない、のどに優しい消化のよい食べ物(痛くて食べられない時は、ゼリーやプリン、茶碗蒸し、水分だけでも)しっかり摂れるように心がけてください。下熱すればお風呂(シャワー)も大丈夫です。ただし、発疹があるときは温めすぎると痒みが強くなります。爪を短めに切って肌をかき傷から守りましょう。

保育園や幼稚園、学校などの集団の場で感染が多く、これから涼しくなり発症の冬にピークを迎えます。消毒用アルコール(市販携帯用も含む)も有効です。

### <解熱剤・熱さましの使い方>

高熱が出たからと慌てず様子を観察チェックしましょう

1. 元気がない
2. 食べられない (食べて遊ぶ気力があれば解熱剤を)
3. 水分も摂れない (使わず様子をみましょう。)
4. 機嫌悪くぐずり眠れない

※1~4の状態にあるとき、一時的に楽にしてあげて「食べて、飲んで、寝る」が出来ることで回復を助けるために解熱剤を使いましょう。楽になった時が食事のあげ時です。小まめに水分の摂取と分食で体力を回復しましょう。

食べ物でカラダは出来ているのですから栄養は重要です。

※次に解熱剤を使うまで6時間以上は間隔をあけてください。

(痙攣止めを使っている場合は、お医者さんの指示に従ってください。)

### <保育士の紹介> 齋藤祐美 & 東山美雪 & 福土元子が仲間入り保育しております。

一日でも早く回復できるよう(\*^o^\*)笑顔いっぱい保育です。よろしくお願ひします。